

令和8年度シラバス

文化学園大学保育専門学校

科目名				授業の種類	授業担当者
子どもの理解と援助				演習	栗原博士
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修
1	1	30	15	後期	幼免：選択 保育士：必修
[授業の目的・ねらい]					
子ども一人ひとりの心身の発達や学習過程、子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法、保育者としての援助や態度の基本について習得する。					
[授業全体の内容と概要]					
子どもの発達や学びに関する知識を、単なる知識にとどめず、保育者が実際に活用できる実践力を養う。					
[受講上の注意事項]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにPC (Word、Excel、PowerPointなど)を使い、テキストをまとめたり、意見をまとめたり、発表したりする。</li> <li>・毎回、事例検討やロールプレイを行うため、積極的に取り組むこと。</li> </ul>					
[使用テキスト]			[評価基準]		
「子どもの理解と援助 演習ブック」(ミネルヴァ書房)			定期試験、授業中の発表やレポート提出、ディスカッションやグループワークへの参加・態度		
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]					
回	項目		授業内容		
1	オリエンテーション/ 子ども理解の意義		授業の進め方/子どもを理解すること		
2	養護と教育の一体的展開		保育における養護と教育		
3	共感的理解		共感とは何か		
4	生活と遊び		遊びを通して、子どもの成長を考える		
5	人的環境としての保育者		子どもの成長を促すための保育者としての関わり方		
6	集団での育ち/葛藤やつまずき		集団の中での子ども同士の関わりについて		
7	保育環境の理解と構成		子ども理解を踏まえた保育環境を考える		
8	環境の変化や移行		子どもを取り巻く環境が子どもに与える影響について		
9	観察・記録・省察・評価		観察・記録・省察・評価を通して、子どもを理解する		
10	職員間の対話		職員間の連携を円滑にする		
11	保護者との情報共有		保護者とどのように情報を共有していくか		
12	発達の課題に応じた援助と関わり		各発達段階に応じた関わり方		
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		インクルーシブ保育について		
14	就学への支援		切れ目のない発達を支える		
15	まとめと試験				
実務教員としての経歴					
実務経験と授業の関連					